

日本鉄鋼協会記事

河上益夫本会元理事逝去

本会元理事，東京工業大学名誉教授，理学博士，河上益夫先生はかねてご療養中のところ昭和50年7月29日ご逝去されました。享年78才，ここに謹んで哀悼の意を表します。

研究委員会

昭和50年度第2回委員会 開催日：9月17日。出席者：荒木委員長，ほか21名。

研究委員会の性格と研究委員の使命について，企画委員会で提出された資料の一部をもとに討論した。

鉄鋼協会としての重要基礎研究テーマについて前回より継続審議を行なった。今回は前もって各委員よりテーマについてアンケートを提出願ひそれをもとに概要説明だけに終つたが，次回には今回出されたテーマ（34件）を実際に運営していく方法について，内容を統合した形のアンケートを時前提出願ひ審議することにした。

第4回石原・浅田助成金交付研究の決定を行なった。その他各委員会の活動報告があつた。

編集委員会

第8回和文会誌分科会 開催日：10月17日。出席者：松下主査，ほか16名。

1. 18件の論文審査報告がなされ，修正依頼5件，掲載決定13件であつた。

2. 「鉄と鋼」第62年第2号（2月号）に論文10件，技術報告2件，技術資料1件，特別講演1件を掲載する事に決定した。

3. 他学協会の会誌の発行状況について調査した結果を次回まとめることとした。

欧文会誌分科会 開催日：10月14日。出席者：橋口隆吉主査，ほか7名。

1. 8件の論文につき審査報告がなされた。

2. 「鉄と鋼」62年1号のアブストラクトより3件の研究論文と1件の Technical Feature，及び「材料」より1件，「住友金属」より2件，「石川島播磨技報」より1件の研究論文について投稿を勧誘することになった。また第90回講演大会における浅田賞受賞講演2件について，Lectureとして投稿を依頼することになった。

標準化委員会

ISO鉄鋼部会

第33回SC1分科会 開催日：9月12～13日。出席者：佐藤主査，ほか6名。

議題

1. DMN吸光光度法によるV定量法に対する日本意見のまとめ

2. カナダ提案 N-BAHA 吸光光度法によるV定量法

に対する日本意見のまとめ

3. Euronorm 規格の調査結果

4. Ni 重量法（CECAの挙動）

5. Cuの原子吸光分析法（過塩素酸の影響，鉄共存量の影響など）

6. スペイン提案のSiの吸光光度法

7. Pの吸光光度法に対する英国意見

8. SCIの標題と範囲

9. 化学分析分科会との関係

第8回SC8分科会 開催日：10月2日。出席者：青木主査，ほか8名。

第9回ISO/TC17/SC8国学会議対策議題

1. Sloping flange sectionの寸法

2. Bulb flatの寸法

3. L-section (Invert)の寸法

4. 棒，形，平の高度な寸法許容差

5. 各国コメントの検討

6. 日本代表の選出

データシート部会

第21回構造用鋼の機械的性質分科会 開催日：9月12日。出席者：山本主査，ほか7名。

データシートシリーズI 第3集質量効果を考慮した機械的性質のSNCM 8等8鋼種のデータシート原案の最終チェックを行なった。

鋼管分科会

第38回分科会 開催日：9月11日。出席者：丸岡主査ほか11名。

つぎの議題について検討を行なった。なお配管用鋼管の標準寸法はISO寸法への統合をはかる前向き姿勢で進めている。

1. 塗覆装WGによる塗覆装鋼管体系の検討

2. ボイラ用鋼管に追加される特別品質規定の検討

3. API5LXのJIS化検討

4. 配管用鋼管の標準寸法

鋼質判定試験方法

第21回分科会 開催日：9月17日。出席者：品川主査ほか14名。

JIS鋼の火花試験方法の見直し

火花形体を現行規格通りスケッチとするか，写真を載せるか，を中心に各社の実状が発表されたが，火花形体のチェックを行なうため，鋼種別に各社分担を決め，次回持寄ることにした。

JIS 原案作成分科会**第1回船舶特殊軸用鋼管改正原案作成分科会**

開催日: 9月18日. 出席者: 田中主査, ほか 16 名.

18-8ステンレス鋼種の追加, 標準寸法の廃止, 寸法許容差の厳格化, 強度レベルの選択, 真直度の程度, 水圧試験数値の妥当性, 永久変形量など, について総括的な検討を行なった. 次回小委員会で素案を作成することになった.

ク リ ー プ 委 員 会

第5回高温熱疲労試験分科会 開催日: 9月23日. 出席者: 雑賀主査, ほか 17 名.

下記の内外文献について, 今回担当の金材技研, 久保田鉄工, および住友金属の3機関の各委員より紹介並びに同抄訳の説明があり活発な討議が行なわれた. 最後に雑賀主査から今後の計画が述べられて会議を終了した.

1. 実用高温材料の低サイクル高温疲労について.
(試験機, 試験方法, 機器の検討)

2. Effect of Temperature and Strain Rate on the High Temperature Low Cycle Fatigue Behavior of Austenitic Stainless Steels

3. R. M. Curran, B. M. Wundt

"Summary of Creep-Fatigue Interspersion Test Results from June 1971 to June 1974" ASTM Metal Properties Council Subcommittee 3 Low-Cycle Fatigue Consulting Memorandum No. 22

国際鉄鋼技術委員会

第3回委員会 開催日: 10月7日. 出席者: 豊田委員長, ほか 14 名.

技術委員会では現在鉄鋼業におけるエネルギー問題を検討している.

1. エネルギー使用と技術変遷との関連

わが国鉄鋼業界における過去 15 年間のエネルギー使用を製鉄, 製鋼, 圧延, その他部門別に検討した. スクラップ比の減少, 溶鉄使用率の増大により, エネルギー原単位はこの 15 年間に約 30 万 kcal しか減少していない.

2. エネルギー換算表の作成

IISI 技術委員会では更に各操業要因とエネルギー換算表の作成を行なっているが, わが国はデータ提出のみでよいと決まった.

3. FormA-I, FormB の提出

'74~'75 における新設, 増設 (A-I), 技術上の向上, 改善 (B) を IISI へ提出するが, その資料が各社より提出された.

鉄鋼基礎共同研究会**特殊精錬部会**

第6回第6分科会 開催日: 9月25日.

出席者: 成田主査, ほか 11 名.

本分科会は特殊精錬に関する文献収集を行なっており, すでに第1回分としてESRに関する文献集を発刊している.

今回は第2回のESR文献収集に対する方針を下記のように確認した.

(1) 分類項目, とりまとめ方, 形式などは第1集に準じ, 整理番号は通し番号とする.

(2) 文献のカード化(10月末), 分類作業(12月)とした.

さらに今年度からはESR以外の特殊精錬法についても取扱うことにした. 対象は単純な脱ガス法および取鍋精錬法, 特定のプロセスを対象としない基礎的なものは原則として除くことにした. 尚, 本件は2年に1回の割合で発刊することにした.

鉄鋼の応力腐食割れ部会

第2回部会 開催日: 9月12日. 出席者: 久松部会長 ほか 14 名.

1. オーステナイトステンレス鋼の塩化物応力腐食割れ研究の進め方について, 部会長及び幹事の作製した案に従い審議した.

幹事案は

a) 基礎的研究 (割れ発生条件の検討, 伝播条件の検討)

b) 応力的研究 (機構をふまえた促進試験法の開発)

c) 目標 (ステンレス鋼の使用条件における寿命予測一割れ感受性の定量的評価) からなっているが, 各委員の考え方が必ずしもこれに一致しないので, 幹事案と同じ様式で各委員案を部会長宛に送り, まとめた結果を次回部会でもう一度審議することにした.

2. 講演

「304 鋼の加工誘起変態と腐食について」

上記題目で日本冶金工業遅沢浩一郎委員より講演があり活発な質疑応答がなされた.